

高等独文解釈 (2)

田中健二(大阪大学名誉教授) 編著 / 林正則(大阪大学名誉教授) 校正

NPO 法人 DGC 基礎研究所 発行 (2012 年 1 月 24 日)

84. 人間には自己愛も隣人愛もある
85. 自然科学と歴史科学との相違
86. 哲学の二形式:「説得」と「誘導」
87. 科学における心理学の帰属問題
88. 政治的区別は敵味方の区別である
89. 専門語は新造語や借用語で補う
90. 相対主義的真理の誤り
91. 言語遺産と造形美術品について
92. プラトーの不朽の業績
93. 現代文化に内在する「焦燥」について
94. 人文主義・宗教改革以後の哲学
95. 素朴詩人のあり方
96. 感情詩人のあり方
97. ローマン主義は変化更新の要素である
98. ゲーテの偉大さについて
99. 「人間の問題」の取り扱い方
100. 天才は素朴な表現で思想を表す
101. 心理学・論理学・認識論
102. 真の詩を作る難しさについて
103. 規範は行為・態度の普遍的規則である
104. ヤンセンのカトリック的史観への疑問
105. 人間の意識する世界とは何か
106. 価値基準と時代区分・時代評価
107. 戦時におけるインテリの態度
108. 事実を「法則」と見てはならない
109. ドイツ観念論の三大哲学者
110. 道義の涵養と哲学の課題
111. 人文主義的自然観とは何か
112. ゲーテの「体系」忌避について
113. 純粋な「利己主義」とは何か
114. リルケの生き方について
115. 「文芸」と「絵画」との相違点
116. フランス文化の特質について
117. クロプシュトック文学の特徴
118. ゲーテにおける「体験」の重要性
119. トーマス・マン叙事文学の精神について
120. トーマス・マンの「遊びとしての芸術」観
121. 「退屈」の本質について
122. 「時間」は利用すべきものである
123. 言語学は精神科学一般の基礎学である
124. 言語、特に方言の空間的領域について